

可茂会 後援会報

第25号 2017.12.1

発行

社会福祉法人
可茂会 後援会
可児市瀬田1648-9
発行者 加藤 政博
TEL 0574-64-3366



三ツ池第2ホーム 完成!!

花と緑とからくり時計の

可茂学園

念ずれば花ひらく

可茂会後援会会長 加藤 政博



この度、前島前会長の退任に伴い、先の後援会総会（四月八日）で会長に選任頂きました。

平成二十五年七月に子供が可茂学園にお世話になってから五年目に入り、やっと本人も保護者の私も学園の生活リズムに慣れたところで、まだまだ分からない事も多い中、後援会長の重責を全う出来るのか不安もありますが、会員の皆様方のご協力を頂きながら頑張っていく所存でありますので、どうぞ宜しくお願い致します。

さて、私の好きな「坂村真民」の詩に「念ずれば花ひらく」という代表作があります。

です。

「念ずれば花ひらく 苦しいとき 母がいつも口にしていた このことばを わたしもいつのころからか となえるようになった そつして そのたび わたしの花が ふしぎと ひとつ ひとつ ひらいていった」

障害児を授かってから三十数年、様々な経験を重ねた後、可茂学園に入所させて頂いたとき、真にこの言葉を思い出しました。

これからも、可茂学園が利用者にとっても、職員の皆さんにとっても、生き生きと楽しく過ごせるような場所であり続けられる様、明るい未来を念じながら、後援会活動を継続、発展させて行ければと思っています。

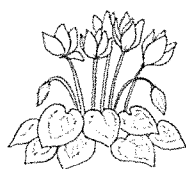
この春には、男子用のグループホーム「三ツ池第2ホーム」がオープンしました。少しでも利用者の皆さんの生活の選択肢が広くなればと願っています。

また、資源回収、可児市健康フェアでのバザー等、皆様のご協力の下、活動も着実に成果を上げることが出来ました。本当にありがとうございます。

一方、障害者の権利擁護につきましては、障害者差別解消法の施行を機に、具体的な取り組みに弾みがつきましたが、法の整備が進んでも、人々の心の中に潜む差別意識が解消され、偏見がなくなるものではなく、国内でも時々痛ましい事件が発生しております。

まだまだ、障害者を取り巻く環境は厳しく、今年は衆議院選挙も行われましたが、障害者総合支援法の三年後の見直し（平成三十年四月施行）の準備が進められており、大きな期待とともに見直し内容等の情報を共有化し、障害者にとって血の通った制度となるよう動向を注視していく必要があると思っています。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



資源回収報告

後援会では平成二十八年度から資源回収活動を始めました。皆様のご協力により順調に売り上げを伸ばすことができています。

■ 資源回収売上実績

平成29年12月1日現在

実施日	12月22日	平成29年 2月23日	3月28日	5月25日	8月1日	9月14日	合 計
売 上	8,370	6,260	7,470	10,220	10,060	7,430	49,810
可児市 奨励金	2,340			2,480	2,480	1,780	9,080
合 計	10,710	6,260	7,470	12,700	12,540	9,210	58,890

【回収品目】 アルミ缶、段ボール、新聞紙、雑誌
※スチール缶、ペットボトル、ビンは回収しておりません。

後援会だよりに寄せて

園長 日比野邦彦



二〇一七年の今年も残すことわずかとなりました。

可茂会後援

会員の皆様におかれましては、ご清栄のごことお喜び申し上げます。

また、日頃より法人が運営をする可茂学園や麦の丘、三ツ池ホームに對しまして、格別なるご理解とご支援を頂いておりますことに、重ねて厚くお礼申し上げます。

さて、十月十四日・十五日可児市文化創造センター「a・a」で開催されました第二十七回「健康フェア可児」に、今年も可茂会後援会による日用品バザーを出店されました。当日は生憎の雨模様でございましたが、大勢のお客様にお越しいただき可茂会後援会のブースも大盛況でした。会員の皆様にはご家庭で不要になった日用品等のご寄付、そして役員の皆様には出店する日用品集めから値札

付け、当日の販売と多くのご支援とご協力を頂きましたことに心よりお礼申し上げます。

私自身も当日の午前中、日用品即売等の激励に伺いましたが、役員さんによる販売は手馴れたもので、お客様との言葉の掛け合いから日用品や麦の丘のパンがどんどん売れていました。そして何よりも嬉しかったことは、全ての商品（日用品と麦の丘のパン四〇〇個）が完売した事もさることながら、多くのお客様が可茂学園や麦の丘のことをご存知で、後援会活動の目的の一つである広報活動推進の成果があらわれていたことです。

国は「地域共生社会の実現」をスローガンとして掲げています。地域は、高齢者、障がい者、子供たちなど世代や背景の異なるすべての人々の生活の拠点であり、住民同士が、お互いを理解し、つながりを育み、支え合うという地域共生社会の実現をめざすべきとし

ています。そうした意味で、毎年「健康フェア可児」への参加をはじめとして、可茂会後援会や可茂学園が地域参加をしていくことで理解の輪が広がり、地域につながっていることを感ずることができた嬉しい一日でした。

話は変わりますが、昨年の津久井やまゆり園の入所者殺傷事件から早いもので一年五か月が経ちました。事件後すぐに可茂学園で防犯委員会を開催し、不審者対応マニュアルの整備等ソフト面やハード面での見直しと検討を行いました。特に夜間においては、入居者の日常生活支援に加えて、不審者対応にも備えるには、夜間三名の限られたスタッフでは限界があり、ハード面での整備が不可欠という結論でした。国においても、この事件の重大性を鑑み、障がい福祉事業所の防犯設備が予算化されました。可茂学園、三ツ池ホーム共に「平成二十九年度岐阜県障害者福祉関係施設整備費補助金」を申請致しましたところ、今年六月に補助内示の通知をいただくことができました。整備内容は、防犯カメラや侵入センサーの設置、

警察・消防へのワンタッチ通報設備などです。十二月より工事を開始し、整備完成予定は平成三十年一月です。

ご利用者、支援スタッフの安全とご家族の安心に大きく寄与することを期待しています。

愛のともしび基金のご助成で
多目的車両を
購入しました

この度岐阜県愛のともしび基金の平成二十八年度補助事業として可茂学園多目的車両を購入いたしました。

ご利用者、職員の安全性が確保され、快適で乗りやすい車に利用者も職員も大変喜んでおります。大切に使用させていただきます。

岐阜県愛のともしび基金のご助成に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



安江剛生

テーマは『つなぐ』 親が元氣な
うちにできること。まず、親と子
の現実を知る話。

と。親の高齢で介護が必要になつて、家族が介護離職をしたら再就職は難しい。高齢の親が金銭的、精神的に追い詰められて、虐待、心中をする。

しかし、身寄りがない人は、第三者の後見人をお願いするしかありませんが、難しい問題が沢山あると聞きます。親の高齢化が進み、親亡き後の子供の情報やお金、将来の生活を誰に託すのか？兄弟や親戚で後見人になる事が一番良いと思いますが、いろいろな事情でそれぞれの生活もあり、難しいと思います。

今後、知的障害者と高齢者の受け入れと、後見もできる施設は、できないのでしょうか？ 今のよう
うに施設で生活ができれば、本人も親も家族も、
安心できるので
可茂学園の存続
を願っています。



鈴木美由紀

初めてこういう機会に触れて、利用者さん達の活気にあふれた姿を拝見し、嬉しく思いました。

現在に至るまでには、色々な苦
 勞・困難があつたと思います。し
 かし今は一人一人が職人に育ち、
 自分達の作つたパンの売り上げが
 伸びて、賃金も上がり、更にやる
 氣が出る、やる氣が出ると更にい
 い商品が出来る、いい商品が出来
 ると売上げが伸びる・・・いい連
 鎖が出来上がっていました。

地域の方々にも、温かく見守られ、ご理解を頂き、利用して頂いていると伺いました。世間にはまだまだ入所を待っている方が多くいると聞いています。生きがいを持って過ごせる施設が今後も増えていくことを願っています。

秋元春美

バザーも皆様の御協力で出していただいた物、商品一つ一つブー
スの前も何度もこれれ品定めをし
ながら説明を聞かれ手に取り買っ
て下さいました。

麦の丘のパンも毎回楽しみに
待っていてくださり、喫茶の方へ
も足をはこんでくださった方から
「皆さんの対応、落ちついてくつ
ろげる場所ですね」と、うれしい
お声も聞きました。

私たちが役員交替で休けいを取りながら、対面販売をしたのですが、あつという間に過ぎていった様に思いました。

毎年たのしみにして来て下さる
方々の多いことに感謝の言葉につ
きます。

親睦旅行(知多方面) に参加して

知多コース

道家 みち子

年に一度の親睦旅行、本人も私も大変楽しみにしていました。

当日は、台風の接近で雨が降っていました。バスの中は、とても静かで、特に利用者さんとバスガイドさんのやりとりも楽しく、バスの中であまり笑ったことのない本人も、笑顔を見せてくれて、とても楽しいひとときになりました。

雨が降っていたにもかかわらず、セントレアでは、傘をささなくてよかったので、利用者さんの家族の方からは、「セントレアでよかったね。」という声も上がりました。

セントレアでは、初めて見る飛行機に感動しました。

なかなか乗せてやることは出来ない飛行機を見て、私達は、どこかへ皆さんと一緒に旅行に行った気分になりました。

昼食も大変豪華で「もうお腹いっぱい」で食べられねえ。」と本人も話してくれました。

他の方からも「もうお腹いっぱい。」という声も上がり、大変満足させて頂きました。

「海も見れてよかったね。」という

言葉も本人から聞き、来てよかったなと思いました。

旅行も午後からは、本降りになっているにもかかわらず、文句を言われる方は、一人も見えず、スムーズに運び、事故もなく大変楽しいものになり、又、無事に帰ってこれてよかったなという思いでいっぱいです。

毎年親睦旅行に参加させて頂きますが、家族の方も大変遠い所から参加してみる方も見え、利用者さんは、大変大切にしてもらって見えることが分かります。

又、毎年旅行を計画し、実行に移し、利用者さんと家族の方を事故も無く無事に帰すという事は、大変な仕事です。この旅行を計画されている先生方に感謝したいと思っています。毎年旅行に参加させて頂き、利用者さんや家族の方、先生方の優さにふれ合える旅行が大好きです。



近江牛料理と 琵琶湖博物館見学 コースに参加して

滋賀コース

余語 潤一

息子が楽しみにしている親睦旅行に今年も親子で参加出来たことを嬉しく思います。我が家では息子が可茂学園に入園して以来、毎年計画された二種類の旅行プランより片方を選ぶ事から旅行が始まります。親睦旅行で訪ねた場所に再度、家族四人でドライブした事も有ります。しかし今年は逆で、去年の夏に家族で訪ねた琵琶湖博物館に二度目の来訪となりました。息子の選択により、二種類の旅行プランより海鮮料理と近江牛を比べて近江牛コースに決めました。十一月四日朝、曇り空の中観光バス二台に分乗して可茂学園を後にしました。当日は雨が降ったりやんだりバスガイドさんに言わせるとけたいた天気だと言っていました。バスには奇跡な天気と思えました。バスで移動中では雨が降り、途中休憩や食事の時にはピタッと雨は止んでいました。学園の利用者さんには、優しい天気でした。琵琶湖博物館では、勝手知ったる息子の案内で淡水生物のオオナマズやバイカルアザラシ等沢山の生き物を、息子



と楽しく見学出来ました。何度見ても生き物には癒されますね。帰り道も息子に教えて貰いながらバスに戻りました。そしてしばらくバスに乗り交通渋滞等により予定より一時間近く遅れて本日のメインイベントである近江牛料理を頂く岡亭本店に到着。空っぽのお腹に何のためらいもなく近江牛の高級肉を流し込んでしまい、余りの美味しさに十分程で昼食を終えてしまった行儀の悪い親子でした。その後、鮎家の郷に寄りお土産を買い家路に着きました。途中で、私達親子に声掛けをして下さった利用者さん保護者さん職員さん、有り難うございました。親子共々楽しい一日になりました。今後も旅行に参加し、皆様と親睦を深めて息子との思い出を増やして行きたいと思っています。

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	摘 要
1. 会 費	1,570,000	1,526,000	-44,000	
特別会員	90,000	90,000	0	30,000円×3口
正 会 員	1,200,000	1,160,000	-40,000	10,000円×116口
育成会員	180,000	189,000	9,000	3,000円×63口
賛助会員	100,000	87,000	-13,000	1,000円×87口
2. 雑 収 入	35,000	153,575	118,575	バザーの売上等、資源回収、補助金 等
3. 前期繰越金	120,208	120,208	0	
合 計	1,725,208	1,799,783	74,575	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	摘 要
1. 会 議 費	20,000	12,862	-7,138	弁当代等
2. 事 務 費	600,000	653,978	53,978	
通 信 費	10,000	8,742	-1,258	切手代
印刷製本費	100,000	94,500	-5,500	会報印刷代
事務消耗品費	10,000	20,736	10,736	コピー用紙代、封筒
施設設備費	430,000	430,000	0	草刈り(業者委託) 三ツ池ホーム含む
雑 費	50,000	100,000	50,000	春祭り協賛金、熊本地震義援金
3. 振込手数料	3,000	1,310	-1,690	郵便振替手数料
4. 積 立 金	1,102,208	1,000,000	-102,208	施設整備積立金
5. 次期繰越金	120,208	131,633	11,425	
合 計	1,725,208	1,799,783	74,575	

収入総額 1,799,783円

支出総額 1,668,150円

収支差額 131,633円(次期繰越)

平成二十八年年度
社会福祉法人可茂会後援会決算書

監査報告書

平成28年度の可茂会後援会決算について監査の結果、その収支は正確に処理され、また証拠書類も整備されています。
よって適正であることを認め報告致します。

平成29年4月3日

社会福祉法人可茂会後援会
会長 前島 宗直様

監査委員 栗畑直喜様

可茂会後援会にご加入を

年間会費

特別会員 三万円
正会員 一万円
育成会員 三千元
賛助会員 一千元

可茂学園施設整備資金確保のために、新会員の
ご加入をお勧めください。

可茂会後援会事務局
TEL 六四・三三六六

可児市文化創造センターで、
10月22日(日)に開催されました『健康フェア可児』で
バザーを行いました。
売上金は51,667円でした。
皆様のご協力ありがとうございました。

特別会計報告書 施設設備積立金

(単位：円)

	収入	支出	残高
マイクロバス寄附(24.10.10)		6,900,000	3,100,000
マイクロバスのスタッドレスタイヤ寄附(24.11.30)		288,000	2,812,000
平成24年度積立金(郵便局定額預金)	2,490,000		5,302,000
平成25年度積立金(郵便局定額預金)	1,400,000		6,702,000
平成26年度積立金(郵便局定額預金)	1,000,000		7,702,000
平成27年度積立金(郵便局定額預金)	1,000,000		8,702,000
平成28年度積立金(郵便局定額預金)	1,000,000		9,702,000

監 監 会 理 理 理 副 会
事 事 計 事 事 事 事 長

梅 前 栗 秋 道 酒 加 安 加
田 島 畑 元 家 向 藤 江 藤
實 宗 直 義 清 敏 剛 政
美 直 喜 進 昭 治 明 生 博



平成二十九年度
可茂会後援会役員

平成二十九年 度

後援会員名簿

= 敬称略 =

特別会員

- 〔一〇〕 吉田整備(株)
- JICセントラル
- 東3冷凍機(株)

正会員

- 〔五〇〕 エース薬局広見店
- 〔三〇〕 加藤 政博 長瀬 邦夫
- 〔二〇〕 山本 孝盛 宮川 春子 前島 宗直
- 〔二〇〕 揖斐 好久 村瀬 正樹
- 〔二〇〕 (有)中部プロパン瓦斯商会
- ミスノ観光(株)
- 小境電気工事
- (株)新興設備
- 可児市建設業協同組合
- フェニックス
- ヘアサロン鈴木
- 堀井 幸一 一瀬 節江 森 鉄雄
- 菅井 省二 宇野 剛由 可児 薫
- 藤野 和彦 斎藤 道夫 安江 公男
- 栗畑 直喜 小島 孝三 山田十九夫
- 高木 武典 竹原 孝 大崎 俊昭
- 加藤 敏明 半澤 哲男 伊藤 貞行
- 近藤なみ子 前田千賀子 近藤 善守
- 日比野重夫 山岡 郁穂 山口 優子

育成会員

- 〔二〇〕 河合 政也 川村 雅哉
- 〔二〇〕 藤野三津子 齊藤みはる 栗畑 澄子
- 栗畑 靖紀 奥田 智恵 山田 輝世
- 山田多美恵 遠藤八重子
- 酒向三保子 玉井美世子 加藤 幸子
- 長尾 和子 谷口 里子 宮川 隆
- 小栗 意夫 伊藤 克人 堀田 泰史
- 堀井 泰弘 伊賀 光邦 酒向 清治
- 加藤美根子 亀貝 進 山田 順子
- 畑尻 都 中原 健二 藤村 恒行
- 玉井 伸二 高木 洋一 加治木龍仁
- 吉田 健治 鍵谷美智代 後藤 邦久
- 長瀬 洋子 小椋 竜也 可児 鋪雄
- 安江 均 安江 剛生 梅田 實美
- 宮口 信久 加藤 高史 古田 和子
- 道家 義昭 小川 和正 長谷川紀子
- 馬場 忠外 日比野恭治 余語 潤一
- 四之宮賢治 上田 重博 千葉 進
- 秋元 進 狩川 正光 河合 進
- 谷口 義晴 山内 千司 島尻 勇人
- 宮川 巖 内藤 寛子 日比野邦彦
- 安藤 千秋 長谷川伸二 佐々 立夫
- 小川 裕一 小川 和則 和下 開
- 白川 彰美 中西 敦子 市川 尚幸
- 渡辺 淳 石原 福美 柘植 和廣
- 藤田 秀子 曾木登美子 堀 智子
- 荻山百合子 舩中 一彦 渡辺須磨子
- 花井一彦

賛助会員

- 〔五〇〕 小島九十男 杉山 洋志 長谷川栄作
- 鈴木かなゑ 大嶋 久興 大野 率子
- 大野起代子 伊藤正和
- 〔三〇〕 梅田 早苗 酒向 陽子 大前 貞子
- 〔二〇〕 亀谷 正勝 井藤 三千子
- 長瀬 修一 井藤 三千子
- 〔二〇〕 尾関 英治 山本 信男 長瀬 寿
- 原科 久子 向井 信 渡辺美知夫
- 今井 初子 石原佐喜夫 長瀬 京子
- 石井 佳子 辻井 幸 高瀬 良子
- 古田 敬子 田中真由美 脇田 純子
- 村上 美幸 佐藤しずか 水野 信子
- 佐藤千代美 清水恵三子 熊谷 恵子
- 梶浦 芳子 可児 伸子 山本美智子

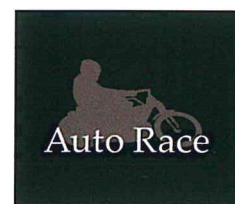
(平成二十九年十一月末日現在)

平成28年度

補助事業完了報告



居間・食堂



厨房

三ツ池第2ホーム完成

—— 地域生活を応援します ——

この度、公益財団法人JKA様（オートレースの収益を広く社会に還元する目的）の補助事業として「三ツ池第2ホーム」を開設することができました。公益財団法人JKA様をはじめ、この事業に携わって頂いた関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

グループホームは、障がいのある方が日常生活上の支援を受けながら地域で共同生活を行うことで、その人に合った自立を目指すことを目的としています。少人数での生活をするすることで、その人らしく自由な自立した生活が可能となります。私たちは利用される方1人1人に合わせた個別支援を大切にしながら、実りある人生を送るためのお手伝いをさせていただきたいと考えています。

「住み慣れた地域で当たり前暮らし」

これは利用される方で本人はもちろんのこと、保護者やご家族の願いでもあります。今まで体験できなかったことをたくさん体験していただき、充実した生活を送ることで豊かな人生にさせていただきたいと願っています。

今後ともご利用者、ご家族、地域から愛される施設であり続けるためにスタッフ一同、より一層の努力を重ね日々の業務に励んで参ります。

【施設の概要】

- | | |
|--------|--|
| ・施設の名称 | 三ツ池第2ホーム |
| ・施設規模 | 建物面積 181.86㎡ 床面積 178.00㎡ |
| ・構造 | 木造合金メッキ鋼板ぶき平屋建
(冷暖房設備、スプリンクラー設備、自動火災報知設備) |
| ・施設の種別 | 共同生活援助事業所（グループホーム）利用定員5名 |